



サイジャーナル

月刊
27-11-12
第424号

日本サイ科学会 平成 27 年 11 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒466-0051 名古屋市昭和区 御器所3-4-21 眞 野 博 貴 ☎・FAX 052 (871) 9060	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒659-0011 芦屋市六龍荘町9-39 (事務局) 木村のり子 河 野 明 夫 ☎・FAX 0797 (22) 6425	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

十一月本部例会のお知らせ

野性と靈性・ヒトの原点 「直立二足歩行」から問う

講師 坪井 香讓氏
「8気流法(身体技法)創始者」

日本の芸道や武道などの特色の一つは「老い」を負の価値でとらえないところである。私のお出会った合気道の植芝翁は晩年、自分の最期の息の時にこそ、最も冴えた技を見せるのだと言い、その通りにした。他に武道の老名人達の似た逸話も聞く。画家富岡鉄斎は70歳過ぎまでは「若描き」とされ、その後の作品にこそ高い評価がされる。江戸期の木食上人は80歳過ぎて生命輝く彫刻作品をものした。彼等は最晩年に幼児のような無邪気を放つのである。能楽でも60位までは若僧(?)とされる。

これは、一つには生命観や身心のとらえ方、その実現技術に秘密がある。昔の人は凄かったで終わるのでなく、そこに何が生じていたのか？

舌、指、掌、足、息、釣合い、

そして想いなど具体的な技術が大切で、私は(身体の文法)として30年以上、ジャンルを越えて探求してきた。今回、(気)の世界を含みつつ、一般向きの実技(希望者参加可)と武道の演技を通して解明し、論じたい(特別演技・气流舞も)。

※武道家であり、身体を使った気の芸術家でもある坪井香讓氏の講演と气流舞の実技のご紹介もある貴重な機会ですので、皆様はご友人、知人をお誘いして、是非ご参加ください。

●坪井香讓氏のプロフィール

早大哲学科(心理学専修)卒。少年期にロマン・ロラン、ユング心理学に触れ、弓道と合気道等実践。1980年ビジョン体験で身心技の極意の一つに出会い、8気流法創唱。パリ国立舞踊研究所、朝日カルチャー新宿、相模女子大(非常勤2003~2006)講師歴任。『やわらげの武』最高師範。著書『メビウス身体気流法』平河出版社、『気の身体術』工作舎等多数。

今月号の記事

- ◎十一月本部例会のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎十二月一月本部例会のお知らせ
- ◎関西サイ科学会十一月十二月一月研究会のお知らせ
- ◎第3回スピリチュアル研究分科会のお知らせ
- ◎第26回宇宙生命研究分科会のお知らせ
- ◎六月通常総会報告
- ◎平成27年9月本部例会報告
- ◎第三九九回関西サイ科学会報告
- ◎第四〇〇回関西サイ科学会報告
- ◎オーブ(たまゆら)形成進行過程の望遠ズーム撮影
- ◎サイ現象のメカニズムスカラ1波の有源性

日時 平成27年11月14日(土)

午後1時30分~4時30分

会場 北とびあ7階第一研修室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(10/11受領分まで)

金六万円也 木村 陽一 様
金二万円也 匿名 様
金一千元也 前田 知則 様
金一千元也 小山田昌弘 様

十二月本部例会のお知らせ

忘年会も兼ねた会員の体験 意見発表と討論の会

毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からのUFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それらをテーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、ビデオ映像等をお持ちでしたら是非ご持参してください。(VHSテープやDVDビデオ

等の映像をお見せしたい方は、早めに事務局にお知らせ願います。) スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。また、ご自分では気が付いていないのに、思いがけない超能力を発揮する方もおられるかもしれません。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

日時 平成27年12月12日(土)
午後1時30分～4時30分
会場 北とびあ7階701会議室
J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 一〇〇〇円

一月本部例会のお知らせ

※サイ科学の主要研究テーマとなったオーブ(ORB)につきまして、3名の主要な研究者により、最新のデータを公開していただき、オーブの正体やその機能、メカニズムについて、解説していただきます。日本における最先端のオーブ研究が分かる貴重な機会ですので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

オーブ研究の現状報告 (動画を含む)

講師 佐々木茂美氏
日本サイ科学会名誉会長
電通大名誉教授
講師 佐藤 禎花氏
北陸日本サイ科学会長
iJO-Colleage-Japan学長
講師 苗 鉄軍氏
日本サイ科学会理事、工学博士

内容…(講演30分+質疑応答15分)を、3名が行う。その後、総合討論。

佐々木茂美・マクロPKの新分野として約3年前からオーブ撮影を開始した。講演では主として、オーブの撮影技法とその結果を述べる。

1. 誰にでも撮れる。デジタル・カメラによる近赤外線域撮影の可否テスト。

最初に偽オーブを撮る(水滴、スプレー水)。次にズーム無し(偽オーブ混入)。ズーム有り(真オーブが多い)で撮影する。様々な撮影条件とオーブ像との関係。

2. 撮影の意識的な面(霊界との連絡)。はじめに、潜在脳(無意識)並びにチャクラの活性化を行う。

脳波(EEG)を α 波と θ 波の「境目」にして、両者が入れ替わる時に霊界を呼び込む(例、鏡見の実験)。このために瞑想(または自己催眠)、真言等を用いて「境目」に入る。なお霊界、アカシック・レコード等は脳幹(視床下部)並びに多次元世界にあると推定。鏡(像)見テスト(鏡像は前後が逆転している)。こちら側(我)と真我(あちら側)を拮抗させ、相殺ゼ口場を形成・累積させるとマクロPKが発生する。

佐藤禎花：web-college-japanの学長として学生を指導している。特異功能保持者であり3年前からオーブ研究を開始した。霊性の目覚め、ヒーリング等の技法を開発。

オーブ動画を介して、霊界との初歩的な情報交換を、世界で始めて成功させた。このオーブ動画の実際の提示、各種オーブ撮影の実験結果等の報告。その他を述べる。

苗鉄軍：カオス解析に関連した研究と、生体計測関連機器の開発等を行っている。講演会では、画像フラクタル解析法を用いたオーブのフラクタル解析。オーブの分類。オーブ動画のカオス解析。オーブ静、動画の比較検討。オーブ形成メカニズム分析。太極図形との関連性等を報告する。

日時 平成28年1月9日(土)
午後1時30分～4時30分
会場 北とびあ7階第一研修室
交通 JR京浜東北線王子駅下車 徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 会員二千円 一般三千円 学生一千円

**関西日本サイ科学会
十一月研究集会のお知らせ**

EGGOからEGGOへ
フルーツ二〇〇〇日物語

講師 中野 瑞樹氏

日時 平成27年11月21日(土)
午後1時30分～5時
会場 大阪科学技術センター 六〇五号室
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車 北へ徒歩5分 韮公園内
会費 会員 二〇〇〇円 一般 三〇〇〇円 学生 一〇〇〇円
問合せ0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

**関西日本サイ科学会
2015年忘年の放談会**

非会員の方も大歓迎です。
十二月の研究集会はお休みです。

日時 平成27年12月5日(土)

午後5時30分より
場所 山海倶楽部
06(6443)0209

※大阪市西区京町堀1・4・3
TCF肥後橋ビルB1階

※参加ご希望の方には会場案内図をFAX等でお知らせ致します。
参加費 四五〇〇円

※12月2日(水)までに、事務局木村までお申し込み願います。
0797・22・6425

**関西日本サイ科学会
一月研究集会のお知らせ**

地震予知・20年間の検証
講師 森川 薫氏

日時 平成28年1月16日(土)
午後1時30分～5時
会場 大阪科学技術センター 七〇一号室
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車 北へ徒歩5分 韮公園内
会費 会員 二〇〇〇円 一般 三〇〇〇円 学生 一〇〇〇円

問合せ0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

**第3回スピリチュアル研究
分科会のお知らせ**

守護霊との対話

講師 平池 来耶氏
(スピリチュアル・セラピスト)

幼少の頃より、神秘や高次元における霊的体験に加え、心理学、哲学、占術、神秘学を研鑽。個人リーディングや瞑想の集いを通じて、魂の向上のセラピーや人生のアドバイスを行っています。著書13冊あり。
内容 会場にいる方の意識を読み取り、ストレスの浄化と今後必要なメッセージを送ります。

日時 平成27年11月1日(日)
午後1時30分～5時
会場 北とびあ7階701会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車 徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
 会員 一〇〇〇円
 一般 二〇〇〇円

※参加希望者は公式サイトからのフォームからお申し込み願います。

<http://homepage3.nifty.com/PSIJ/form/spform.html>

第26回宇宙生命研究分科会

第3回 異能科学会議

テーマ「存在と無…エネルギーとは何か?」

日時 平成27年12月26日(土)

10時30分～17時45分

会場 品川健康センター3会議室

(品川区北品川3・11・22)

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東

口から東急バス「渋谷駅」行

で「新馬場駅前」下車

会費 会員一〇〇〇円(日本サイ

科学会・サトルエネルギー学会・太陽の会会員)一般二〇〇〇円(要注意)会費・一般会費がアップしておりますので、よろしくお願ひ致します。

(世話人 阿久津 淳)

六月通常総会報告

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

◎平成26年度本部事業報告

1. 会員の現状

(平成27年5月末現在)

名誉会員	1名
維持会員	4名
正会員	191名
学生会員	23名
準会員	63名
合計	282名

2. 講演会、研究集会(敬称略)

本部は10月の「第24回全国大会」を含み、計14回の例会・分科会を開催した。

◎本部例会・大会

平成26年

4月12日(土) 西川真知子

「生命の智慧 アーユルヴェーダ」

「生命のすばらしさ」

5月10日(土) 岩根和郎

「般若心経とサイ科学」

6月8日(日) 秦 西平 「気超科学と宇宙生命哲学 新病気学」

7月12日(土) 小林信正

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

「ラップ現象の究明」

◎分科会

●宇宙生命研究分科会

2014年

7月21日(月) 第22回 「第8回 UFO&オーブシンポジウム」

12月1日(日) 第23回 「第2回異能科学会議」

2014年

3月30日(日) 第24回 「第7回 ヒポクラテス・シンポジウム」

●スピリチュアル研究分科会

2014年

11月16日(日) 第1回スピリチュアル研究分科会

3. 総会 平成26年6月8日

北とぴあ901会議室で開催

4. 全国理事会・評議員会

平成26年6月8日

北とぴあ901会議室で開催

5. 本部理事会(第184回～第191回)を4月、5月、7月、9月、11月、12月、1月、2月と8回開催した。

6. 出版物 「サイ科学」第36巻

第1号を発行した。

「サイジャーナル」第415号

から第420号までを発行した。

◎平成27年度本部事業計画

- ・10月11日(日)に全国大会(シンポジウムテーマ「あの世と多次元世界」)を開催する。
- ・月例会を9回(4、5、6、7、9、11、12、1、2月)開催する。
- ・宇宙生命研究分科会を3回(7、12、3月)開催する。
- ・スピリチュアル研究分科会を2、3回(4月+)開催する。
- ・本部理事会、全国理事会評議員会を開催する。
- ・サイジヤナルを6回発行する。
- ・「サイ科学」を発行する。
- ・公式サイトを運営する。
- ・「心を科学する博物館 サイ科学遺産」の資料を整備する。
- ・その他

○活動方針として

- ・刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。
- ・会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施、活用する。
- ・インターネットの公式サイトやメルマガリストを活用する。
- ・雑誌等の告知欄やメールマガジンに行事の予告を載せていく。

・地方日本サイ科学会との連携を深める。

- ・地方からも講師を招く
- ・理事や若手の幹事(理事候補)、評議員を増やす。
- ・新しい事務局長を募集し、来年6月までに小林から引き継ぐ。
- ・謎、不可思議と思えるミステリー写真や映像などを募集し、展示発表する。
- ・その他

◎地方日本サイ科学会

東北日本サイ科学会
会長 佐佐木 康二

◎平成26年度事業報告(敬称略)

平成26年

4月12日 第194回研究会総会
*平成25年度事業報告、平成26年度事業計画

*『引き寄せの法則』と宇宙人
佐佐木康二

6月14日 第195回研究会
*『若返る水』をつくって飲む

根本忠明、佐佐木康二

8月9日 第196回研究会
*「浄化(真の霊能) 〓生命力+利他愛」 佐佐木康二

10月11日 第197回研究会

*「霊視の方法」勘がよくなるパワワード」 佐佐木康二

12月13日 第198回研究会
*「量子チェシヤ猫と『量子まねき猫』」 佐佐木康二

平成27年

2月14日 第199回研究会
*「霊能力や金運は重力場×磁場のことだった！」 佐佐木康二

◎平成27年度事業計画

東北日本サイ科学会は、創始者岡田幸千生が掲げた目的、「聖人及び超能力者の先人たちを出来るだけ深く探求して、誰でも本来的に持っているはずの超能力を万人に成長させて人類の活動能力を本質的に高めること」を今後も目指し、次の事業を行う。

1. 定例研究会の開催

定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに考慮する。

2. 「東北日本サイ科学会研究抄録」の編集

3. 長期研究テーマの推進

サイ現象の観測量化―「スカラ1波カメラ」等の開発、気・意識の種類の見分け方、「念写」写真・「オーブ」画像等の分析・検証(福来心理学研究所との共同研究)、意識純化・宇宙意識への目覚め、地震予知、数秘術・秘数の科学性の研究、フリー・エネルギー装置の研究、過去世・霊性・霊能の研究

4. 講演会等の開催

「念写実験」等のテーマで5月、8月に実験会を開催する(福来心理学研究所と共催)

5. 会推進スタッフの充実、本部会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」(福来心理学研究所との共同事業)及びビデオ資料等の閲覧サービス・管理

中部日本サイ科学会

会長 眞野 博英

◎平成26年度事業報告

研究会I
日程 平成26年9月20日(土)
会場 博愛療院ホール
参加者 12名

研究集会Ⅱ

日程 平成27年3月14日(土)
会場 博愛癒院ホール
参加者 8名

◎平成27年度事業計画

研究集会Ⅰ
日程 平成27年9月12日(土)
会場 博愛癒院ホール
研究集会Ⅱ
日程 平成28年3月12日(土)
会場 博愛癒院ホール

講師 苗鉄軍(工学博士、日本サイ科学学会理事)

◎平成27年度事業計画

平成27年5月24日(日)
「外惑星(天王星、海王星、冥王星)が与える個人の運勢の大きな波と世界の動向」

講師 瀬尾泰範(才能開発研究所代表、占星学研究者)

平成27年9月6日(日)
「水からの伝言」と「新しい水の科学」

講師 根本泰行(IHM総合研究所 所長)

関西日本サイ科学会

会長 河野 明夫

◎平成26年度事業報告(敬称略)

平成26年度は8月12月を除き、26年4月(第387回)から27年3月第396回(の10回開催した。参加者は合計364名であった。

研究集会

平成26年
4月19日 小林信正「靈感・霊能力について」

5月17日 橋本和哉「気で読みとる鬱積感情、霊障とその治療」

6月21日 平岡憲人「よみがえるやまと古事記以前の日本」

7月19日 高尾征治「放射能分解理論の発見と可能技術の数々」

9月20日 安藤理「人生を変える一番シンプルな方法」

10月18日 水口清一「潜在意識と習慣」

11月15日 志賀一雅「いま脳波が面白い!」
「右脳と左脳との脳波共鳴」

平成27年
1月17日 高峯秀樹「手相の神秘と科学」
「脳の活用で手相が変わる」

2月21日 坂井洋一「比較言語学で読み解く記紀が黙して語らない日本の古代の真実」

3月14日 長堀優「見えない世界の科学が世界を変える」

◎平成27年度事業計画

平成27年度は下表のように8月12月を除き、27年4月(第397回)から28年3月(第406回)の10回開催する予定である。

平成26年

4月 亀井澄夫「妖怪って何? 妖怪講座一日入門」

5月 宮崎貞行「チャクラに響くコトタマパワー体感セミナー」

6月 小牧昭一郎「意識による鉱石の成長・サイをめぐるよもやま話」

7月 梶原和義「永遠の生命 死んでたまるか、死は真つ赤な嘘、死ぬのは真つ平御免、人類は死に完全勝利した」

9月 スワミ「物質化現象 無から有は生じる」

10月 中島敏樹「水と珪素の集団リズム力」

11月 中野瑞樹「EGOからEGOへ フルート二〇〇〇日物語」

九州日本サイ科学会

会長 森安 政仁

◎平成26年度事業報告(敬称略)

研究集会を6回開催しました。
平成26年
7月6日 森安政仁「生霊について」

9月7日 森安政仁「心の調和について①」

北陸日本サイ科学会

会長 佐藤 禎花

◎平成26年度事業報告(敬称略)

平成26年6月29日(日)

〈映像〉幻解!超常ファイルUF
O映像徹底分析 「光の十字架」
阿久津淳が帯津良一先生に聞く
「自然治癒力とはなにか?」

解説・講師 佐藤 禎花(北陸日本サイ科学会会長 ホリスティック健康科学研究所代表)

平成27年2月22日(日)

「エナジーセンター」
「チャクラでみる五感療法」

10月12日 福田 康宏「ボディトクについて」

11月2日 森安政仁「心の調和について②」

平成27年

1月25日 新年会
2月8日 島重忠(長崎伊勢宮神社 宮司)「神社について」

◎平成27年度事業計画
4月12日(日)橋本和哉「医師が語る目に見えない世界」

6月14日 森安政仁「心の調和について③」

7月12日 森安政仁「研究集会」

9月13日 森安政仁「研究集会」

●平成27年度日本サイ科学会役員構成(*印は新任または改選)

- 名誉会長 佐々木 茂美
- 会長 浪平 博人
- 理事長 久保田 昌治
- 副理事長 小林 信正
- 顧問 窪田 啓次郎
- 品川 次郎
- 西條 一止

地方会長兼理事

東北日本サイ科学会会長

佐々木 康二

中部日本サイ科学会会長

眞野 博英

北陸日本サイ科学会会長

佐藤 禎花

関西サイ科学会会長、副理事長

河野 明夫

九州日本サイ科学会会長

森安 政仁

理事(常任理事を含む)

阿久津 淳、大木 高伸、大谷 宗司*、小林 泰樹*、小林 正典、小牧 昭一郎、志賀 一雅*、志村 則夫、徳永 康夫*、中島 敏樹*、鯨江 勇*、本間 修二、前田 知則、苗 鉄軍*、渡辺 宙明*

幹事

飯見 勇、石川 允朗*、小久保 孝行*、吉田 一美

評議員

薄葉 達夫*、占部 浩一、瓜生 昌代司*、大西 章*、奥村 八郎*、加納 愛信、鴨川 裕司*、小林 隆文*、佐藤 ひろ子*、杉立 繁、高橋 至誠*、谷口 五月*、飛田 洋子、三浦 良江*、屋敷 益男

監事

和田 守央*

(1) 本部役員・理事会は会長、理事長、顧問、常任理事、幹事に

よって構成される。

(2) 常任理事は月1回開催される本部理事会に出席できる理事を示す。

(3) 常任理事の選出は、理事の自己申告による。

◎基幹研究賞・功労賞表彰

基幹研究賞↓本年度は該当者はありません。

功労賞

三浦 良江 殿

あなたは日本サイ科学会会員(日本サイ科学会評議員)として、永年にわたり 研究と啓蒙活動にご尽力されました

本学会の輝かしい発展はあなたのご努力におう所が大でありますよって日本サイ科学会功労賞を贈り表彰し感謝致します

平成27年6月7日

日本サイ科学会 会長 浪平 博人

〔平成26年度決算報告〕

収入			
項目	予算	項目	決算
会費	2,000,000	会費(正)	1,780,000
例会	400,000	会費(学生)	147,500
寄付	500,000	会費(準)	215,000
本・他	100,000	会費(維持)	40,000
繰越金	2,451,346	会費(賛助)	0
合計	5,451,346	入会費	75,000
		例会収入	621,000
		本会寄付	851,300
		本・他	143,820
		広告料	0
		前年度繰越金	2,451,346
		合計	6,324,966

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費	2,000,000	ジャーナル発行	600,000
例会	500,000	会誌発行	300,000
寄付	500,000	人件費	1,530,000
本・他	100,000	例会会場費	120,000
繰越金	2,628,247	講師謝礼	200,000
合計	5,728,247	事務用品	120,000
		郵送・配送料	50,000
		通信費	80,000
		会議・打合せ	80,000
		交通費	40,000
		事務所維持費	140,000
		郵便・銀行振込料	10,000
		予備	100,000
		末期繰越金	2,358,247
		合計	5,728,247

支出		
項目	予算	決算
ジャーナル発行	600,000	657,711
会誌発行	300,000	318,600
人件費	1,530,000	1,534,000
例会会場費	120,000	136,420
講師謝礼	200,000	268,000
事務用品	100,000	267,355
郵送・配送料	50,000	46,209
通信費	80,000	87,541
会議・打合せ	70,000	91,482
交通費	40,000	44,316
事務所維持費	140,000	155,767
郵便・銀行振込料	10,000	3,870
予備(予稿集印刷代)	100,000	85,448
末期繰越金	2,111,346	2,628,247
合計	5,451,346	6,324,966

〔平成27年度予算〕

平成27年9月本部例会報告

あなたの人生が楽しくなる インド占星術

講師 山田 欽子氏

9月12日に講演の機会を与えてくださった日本サイ科学会の皆様、当日お越しくくださった皆様、大変ありがとうございます。

以下は私が当日にお話しした内容を簡単にまとめたものです。

インド占星術とは

インド占星術とは、サンスクリット語でジョーティッシュユと呼ばれ、「光の知識」という意味です。インド占星術の起源は正確にはわかっていませんが、五〇〇〇年前に初めて古代ヴェーダ文献「パラーシヤラ・ホーラ・シヤストラ」に記されました。

インドの賢者たちが深い瞑想状態の中で直接、神の啓示を受けて与えられたものであると言われて

います。

での天体の配置図を「出生図」と呼びます。その出生図の意味を読み解くことで、インド占星術は占



インド占星術は西洋占星術と同様に黄道12星座を使用します。

インド占星術では、太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星の他に黄道(太陽の通り道)と白道(月の通り道)の交点であるラーフ、ケートゥも含め全部で9つの惑星(実際は惑星以外も含む)を使いま

す。またこれら9つの惑星の他にラグナ(リアセンドラント)も使用しま

す。ラグナとは、生まれた時の東の地平線と黄道帯との交点です。

出生図は以上のラグナと9つの惑星、星座、そしてハウスで構成

されています。

ハウスはラグナを起点として、12ハウスが割り振られます。

これらの12ハウスにはそれぞれ象意があり、また9つの惑星のうちラーフ、ケートゥを除く7惑星のいずれかが、それぞれのハウスの支配星として対応します。

インド占星術の魅力 ヽ ヱイムシヨタリダシャー

インド占星術の魅力の1つにヴェイムシヨタリダシャーと呼ばれるものがあります。ヴェイムシヨタリダシャーは出生図の持ち主の120年の人生の年表です。

この120年の年表もインド占星術で使用される9つの惑星を用いて表現されます。このヴェイムシヨタリダシャーは、出生図で表現されていることが、いつ頃強く現象化するかを表します。

言い換えると、ある惑星のヴェイムシヨタリダシャーの時期は、その惑星が支配するハウスや在住するハウスのテーマ、星座の性質、また惑星自身の象意が現象化されるため、これらを読み解くことで、

出生図の持ち主の人生の浮き沈み、成功の時期、カルマの発芽する時期など、人生に何が起こるかを予測することが可能になるのです。

終わりに

インド占星術(ジヨーティッシュユ)で自分のホロスコープ(出生図)を眺めると、自分自身についてより深く知り、理解することができようになります。

また、自分の人生の波がどのように来るかを知ること、自分の人生に役立てることも可能です。

インド占星術で自分の人生を知ることによって、過去を悔やみ、未来を心配するのではなく、今現在を生きていることに集中することが出来るようになります。

現在のこの混沌極まる世界において、インド占星術は皆様の人生の道標となってくれます。

人生に迷ったとき、立ち止まった時、どうしてよいか分からなくなったとき、インド占星術はきっと皆様を助けてくれるでしょう。

インド占星術について無料ホロ

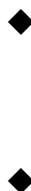
スコープを作成する方法などを無料メール講座

<http://ameblo.jp/pipacari/theme>

10086560178.html

で紹介しています。

皆様のインド占星術習得のお力添えになれば幸いです。



第三九九回関西日本サイ 科学会研究集会報告

意識による鉱石の成長・サイをめぐるよもやま話

講師 小牧 昭一郎氏

とき 平成27年6月20日

ところ 大阪科学技術センター

小牧氏は東京大学工学部卒、猪股修二氏と共に日本意識工学会(JPI)を創立時に参加、副会長を務めた。INNE(新エネルギー電磁気学研究会)主宰。現在は日本サイ科学会理事。自由エネルギー研究会会員。著書・機械式時計講座・東京大学出版会2014刊
今回は小牧氏に知人が大事にし

ている鉱石の結晶の大きさが時間とともに変化したことについて話して頂きます。これは人間の意識が物質に作用した事例の可能性があります。

小牧氏はNマシンなど、主として物理領域での異常現象を追求、意識による磁気の発生は長く研究されました。その他、チェコスロバキアのパブリータ・超能力発生器を尋ねたなど、長い経歴をご紹介します。

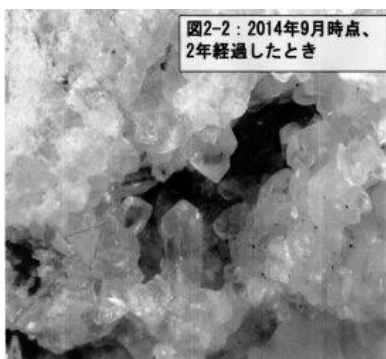
講演内容項目

1. 鉱石が人のふとところで成長するらしい
 2. 磁気が身体周辺に発生して観測できた事
 3. あの世との通信事例
 4. Nマシンの検証
 5. 世界一構造が簡単な電車に関する考察
 6. あの世での楽聖達の作曲した小品を聞く
 7. サイ関係の研究のあり方
1. 鉱石が人のふとところで成長するらしい
超能力者である知人のりんあん氏の所持する鉱石にくぼみがあり、

その中に多数の水晶の単結晶である六角柱があるが、それが2年ほど経過したときに観察すると、六角柱が大きくなっている、形状が変化しているのが観察された(図参照)。

2014年9月に撮影したものを図2-2に示す。

撮影角度が微妙に違うので正確ではないが矢印Aの先端付近は図2-1では空間であった部分が鈍い白い鉱石で埋められているようである。ここでの洞窟の深部の付近でも図2-2の方が浅く見えているように見える。



りんあん氏の祖父、祖母や父が超能力的な力を持っていた。また自分自身もあの世の霊と会話をし、癒やし、成仏させたりして、そのようなやり方でクライアントの病気を直すという、単純な霊能師の

範疇には入らない、非常に幅広い能力をもつ人と思われる。

りんあん氏は「体験に基づく憑依・輪廻転生・靈魂の推察」と題して本サイ学会誌に投稿予定で、本年中にその全貌を紹介される。きわめて稀で貴重な、サイ・テラピストである。

2. 磁気が身体周辺に発生して観測できた事

やはり、超能力者の一面であるが、ある意識状態に入るときに、その超能力者の身体周辺に磁気が観測されるということとを正確に把握して実験データとして報告した。超能力者須田氏の身体周辺でのこの磁針が動く、地磁気と同じ位の磁界となる様子をとりえた。また、この人は、空港の金属検知器でよくアラームがなることがあるという。こうした超能力者の身体周辺には現代の物理学では説明のできない現象がいろいろあり、むしろ現代の科学的な方法の方には何か欠けているものがあるのではないかと問題提起をしたい。

3. あの世との通信事例

私はJPI副会長のころ、昭和

49年たま出版発行の『ソ連圏の4次元科学』に出ていたチエコのPavita氏を訪問面会、超能力発生器を見学し、動作の説明を受けることができた。楊枝のような木片が磁針となつて動くということである。このパブリータ氏も他の超能力者と同様で、ある作業、ある意識状態では単なる木片・楊枝を磁針とすることができて、南北を指す磁針として動作させる様子を実際に観察した。前記した須田氏と同様、ある意識状態になつたときに通常ではあり得ない磁化が発生して楊枝が磁針となり、南北を指す状況となつた。全く同様な道具を帰国してから作成して自分と同様な操作をしても全くそのような状況とはならなかつた。楊枝の磁化はパブリータ氏が行うときのみ、生じる。

4. Nマシンの検証

1993年に日本意識工学会会長の猪股修二氏は小型双子ネオジウムNマシンと題してこれがOU異常を示したと応用物理学会で発表を行った。私はこの実験を追試して実験精度の問題点を明らかにした。この時の結論はOUが観察

されたとはいえない。ということであつた
(OU: over unity 入力より出力が大きいこと)で、永久機関の条件である)



5. 世界一構造が簡単な電車に関する考察

コイルの両側を永久磁石で挟んだ電池をコイルの中に入れると自力で走り出すというもので、これは実物で実験がなされた。
コイルの中に「電池」を入れる

と殆ど瞬間的に電池は反対側へ移動した。

これの説明・乾電池から出た電流が導体のネオジウム永久磁石を介して絶縁のない導体のコイルに流れる。この時右ねじの法則によりコイルに磁界が発生する。コイルの作る磁界とネオジウム永久磁

石から発生する磁界の相互作用により、乾電池の可動子に推力が与えられ、可動子の進行方向前方のコイルから吸引され、反対側から反発される。

6. あの世での楽聖達の作曲した小品を聞く

Rosemary Brownの霊感

1960年代中頃から1980年代にかけていわゆる音楽霊媒として活動したイギリス女性で、当時のイギリスのテレビ、新聞などでしばしば取り上げられ、物議を醸した人である。霊と交流する能力である世の音楽家達から沢山曲を受け取っていたといわれる。
この演奏CDを準備されていたが、残念なことに当日ケーブル接続に異常が発生し、聞くことができなかつた。

7. サイ関係の研究のあり方

2.でもものべたように、現代科学は物質とエネルギーの関係だけを論じている限りは問題はないが、世の中の事象はそれだけではなく、意識が関係する出来事が結構たくさんあり、その意味で、説明のできない事が多いといわざるを得な

い。現代の科学はいわば一面的な科学になっていけると言える。サイ現象には前述のOUの問題も含めて実験者の意識(あるいはサイ的能力)がからんでいる。

新(未知)エネルギーの研究を進めている井出治氏はいわば物質科学の側面だけで、説明ができてしまうようなOU現象をつかんだ状況とも言えるのであるが、いまだにその進展がない。しかし、井出氏も体外離脱の経験の有するなどの体験を持ち、こうした意識に関わる部分と通常問題にされる科学的アプローチとをうまく組み合わせる研究を進めるのが大事ではないか。

☆ ☆

小牧氏は好奇心旺盛な方で、通常の工学の方法・現象とともにサイの現象も知見があり、知人も多く話題豊富であった。場を変えて再度聞きたいものである。

当日の参加者は会員14名、非会員11名、計25名であった。

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

第四〇〇回関西日本サイ科学会研究集会報告(1)

永遠の生命—死は真つ赤な嘘
死ぬのは真つ平ごめん、人類
は死に完全勝利した。

講師 梶原 和義氏

平成27年7月18日
とき 大阪科学技術センター

梶原和義は昭和16年名古屋市に生まれる。長年、般若心経と聖書の研究に没頭。13年間、都市銀行に勤務後、退職して事業を始める。「永遠の命」についての講話活動を関東、関西で行っている。聖書研究会主幹の故村岡太三郎先生に師事し、般若心経と聖書の根本思想について、多くの事を学ぶ。永遠の生命に関する著書多数あり

すべての人間は、「人間は絶対に死んでしまふに決まっています」と、固く思い込んでいます。ところが、他方で、「人間は絶対に死にたくないと思っっているのです」。もし、人間が100%絶対に死んでしまふ

ものなら、「絶対に死にたくない」となぜ思うのでしょうか。

ここに大きな秘密が隠されているのです。

イエスが誕生するまでは、人間は絶対に死ぬものと決まっていたのですが、イエスが死なない命を持って来て、死なない命がある事を証明しました。そうして、イエスは全ての人が、イエスと同じ命を持っている事を証明したのです。地球上に、死なない命を持った人間が誕生した。そこで人間の歴史がまったく変わってしまったのです。絶対に死んでいく人間の歴史から、絶対に死なない人間の歴史に変わってしまった。そこで西暦紀元という新しい紀元が始まったのです。

現在西暦紀元は世界中で用いられています。これはなんでもないことのように思いますが、1つの紀元が世界中で用いられているという事は、大変な事なのです。これはそうしなければならぬという必然性があるからです。

イエスが現れて、人間のあらゆる知識、常識、仕来り、伝統、文化、文明を激しく批判したのです。

それは、人間が絶対に死んでいくという考えに基づいて構築されているからです。特に法律学者、宗教指導者の教えを悪魔の教えだといつて口を極めて罵倒したのです。

そこでイエスはユダヤ教の律法学者と宗教家に捕まえられて、十字架につけられて殺されたのです。イエスは金曜日(殺されました)に、死なない命を持っていたので、日曜日に復活したのです。日曜日は人間が死を破つたという記念日です。そのために日曜日が休日になっているのです。

現在、日曜日は全世界で用いられています。しかも日曜日は1週間に1回、1月に4回あります。1年に50回くらいもあるのです。建国記念の日、憲法記念日、昭和の日(天皇誕生日)、文化の日、勤労感謝の日は、1年にたった1回です。ところが、日曜日は1年に50回もあります。日本人の常識から考えたら、日曜日よりも憲法記念日、昭和の日のほうがはるかに重大な日です。はるかに重大な憲法記念日や昭和の日の休日が1年でたった1回であるのに対して、日本人にとってほとんど意味がない日曜日という休日、1年に50

回もあるということとは、一体どういうことでしょうか。ここに大きな秘密が隠されているのです。

死を破るということは、人類最大の出来事です。死にたくないというのは人類の悲願です。人類の悲願が間違ひなく実現した。人類が何千年も待ち望んできた死を破るといふ悲願が実現した。人類にとつてこんな有り難いことは他に絶対にありえません。この有り難い事実をじっくり味わいなさい。心ゆくまで十分に味わいなさいという意味で1年に50日もの休日(祭日)を与えられているのです。ところが日本人は、日曜日は遊ぶ日だ、レジャーの日だと思つてい

るのです。とんでもない事です。日曜日が何の日か、日本人は誰も知らない。世界中の人々も誰も知らない。人類はなんという愚かなのか、無知なのかと言いたいのです。学校の先生も、大学教授も、知者、学者、評論家もまったく知らないのです。

日曜日と西暦紀元を徹底的に勉強したら、全ての人の中に死なない命がある事が、ありありと分か

るのです。死なない命が在ることは、宗教に全く関係がありません。あらゆる宗教は永遠の生命を与えるふりをして、人間に強引に死を与えて地獄に引つ張つていくという、極悪非道のことを、堂々として

宗家は仏さんを信じたなら、死んだら極楽に行ける、神様、イエス様を信じたなら、死んだら天国に行けるといいます。死んだら、死んだらと言つて、死をはっきり認めてい

るのです。人間に死を堂々と押し付けてい

るのです。新約聖書の中で、「私を信じる者は、たとひ死んでも生きる。生きていて私を信じるものは、いつまでも死なない」とイエスがはっきり言っているのです(ヨハネによる福音書11・25)。

講演会において、全ての人の中にある死なない命を、はっきり証明したいと思

います。

私は永遠の生命に関する著書を、20年前から書き始めました。その頃は永遠の生命というタイトルの本はありませんでした。人類が死なない命、永遠の生命を求めているのは間違ひないと思

います。

積尊、イエス・キリストを研究してきました。そうして、積尊が2500年前に考えたこと、2000年前にイエスが言

った事、講演会等で述べてい

るのです。今の人間は、人間は絶対

に死ぬものだと考えています。死ぬ命を自分の命だと考えています。そうすると、死ぬために生

きている事になるのです。赤ん坊は死ぬために生まれてきた。死ぬために学校に入り、死ぬために勉強して

いる。死ぬために結婚して、死ぬために家を買

なぜなら、人間社会は矛盾に満ちているからです。自分の気持ち

が正確に他人に伝わらないし、他人の気持ち

が正確に分

からない。言い間違ひ、聞き間違ひ、誤解は頻

繁におきてい

るのです。そのため、人を憎んだり、妬んだり、呪

つたりして生

きている。だから、窃盗、強盗、振込み詐欺、傷害、放

火、殺人事件が絶え間ないのです。

自然災害も絶え間ないのです。地震、台風、洪水、噴火、津波が頻

発しているのです。

病

病気がたくさんあります。癌、脳溢血、脳梗塞、心筋梗塞、心臓

麻痺、肝臓病、腎臓病、鬱病、認知症等2万種類の病

気があるとい

ふのです。10万種類の病気があ

るといふ学者もいるのです。これはどうい

うことかと言

います

と、現世は嘘の世界、仮の世界です。もし本

当の世界であれば、これほど多くの災害、病

気、犯罪があるはずがない

のです。

般若心経は、無受想行識、人間の感受も、了解も、意思の決定、それに属する

色々な認識もないとい

つてい

るのです。それだけでな

い

つ

つ

つ

つ

つ

つ

つ

つ

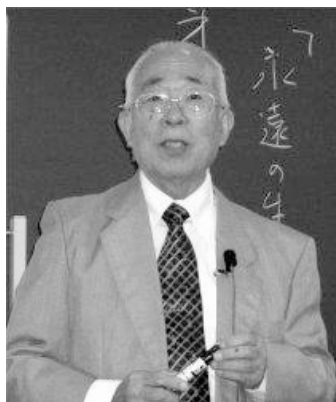
くて、無眼耳鼻舌身意つまり目も耳も、舌、身体、人間の意識さえもないといっているのです。そうして、無色声香味触法、つまり、色や形もないし、声や香りもない。味もないし、触覚の対象もない。そのような道理さえもないというのです。

無境界乃至無意識界、つまり、視覚の領域から意識の領域に至るまで、ことごとく存在しないと云っているのです。そして、無無く無無明尽、つまり知恵や悟りもないし、知恵や悟りがなくなることもないと言っているのです。そうして色即是空、つまりあらゆる物質現象は実体ではないと言っているのです。

人間の考えも思想も空であるし、あらゆる物質も存在しないというのです。山も川もない、日本列島もない、地球もないというのです。これが一切空です。こんな、人間の考えでは到底信じられないことを、般若心経はなぜ堂々と云っているのか。

釈尊が一切空と言ったのは、彼は「明けの明星」を見て、大悟したからです。「明けの明星」は太陽が出る直前の星です。

太陽が出ている世界は昼の世界です。「明けの明星」が出る前は夜の世界です。夜の世界は闇の世界です。人間がどんどん死んでいく世界です。弱肉強食の世界、善悪利害が何か全く分らない世界です。



昼の世界は死なない命の世界です。本当の理想が実現している世界です。これが彼岸の世界です。昼の世界から見たら夜の世界は皆間違っている。夜の世界にいる人は全部死んでしまう。そこで釈尊は、五蘊皆空、人間の考えは皆間違っている。色即是空、目に見える現象世界は実体ではないと言ったのです。

人間が現世にいたら、皆死んでしまう。そこで彼は、ギヤティ、ギヤティ、ハラギヤティ、ハラギヤティ、ハラ

ソウギヤティ、早く彼岸に行け、一生懸命に頑張つて行け。1日も早く彼岸に行くと、叱咤激励したのです。しかし、釈尊は彼岸に行け、行けと言いましたが、彼自身は彼岸に行く事ができなかったのです。

釈尊は死ぬ直前に、「私が説いた事が間違いだと言う人が出るだろう。やがて本当の事を言う人が現れるから、その人に聞きなさい」と言ったのです。そして釈尊の死後500年後に、星が現れた。そこでインドの3人の博士が、「黄金、乳香、没薬」を持って、はるばるインドからユダヤのベツレヘムに行つて、キリスト誕生のお祝いをしていのです。この間の事情は新約聖書マタイによる福音書2章に詳しく書いていますので、参照していただきたいと思ひます。今の人間はまちがひなく全部死んでしまいます。全世界72億の人間は全部死んでしまいます。わたしはこれが残念で、残念でならないのです。何とかしてこれをストップしたいのです。

一体死とは何か。人間はなぜ死ぬのか。

宇宙には、最初に死はなかったのです。ところがこの宇宙に死が発生したのです。広大な宇宙に無数の天使がいますが、宇宙の総括者、絶対者は自分で宇宙全体の天使を治める事をしない。これはトヨタ自動車の社長が、33万人の従業員を直接管理しないのと同じことです。部長に命令する。部長が課長に、課長は係長に、係長が平社員に命令するのです。

宇宙の絶対者、即ち神は、天使の中の最も優れた天使を、天使長に任命した。これがルシファア（輝ける者）と呼ばれる大天使です。宇宙の絶対者はこの大天使に素晴らしい知恵と力、能力、才能を与えたのです。

彼はこの素晴らしい能力を用いて、宇宙全体の天使を治めていましたが、ある時に、自分にある素晴らしい知恵、力、能力、才能は初めから自分のものではないかと言ひ出したのです。だから、自分は偉い、宇宙で一番偉い、宇宙の絶対者より偉い、自分こそ宇宙の絶対者だ、自分は神だと考え始めたのです。

宇宙の絶対者に対抗するもう一つの絶対者ができた。これが死の

権威をもつ者、いわゆる悪魔の発生源です。宇宙の絶対者は誠の神です。命そのものです。悪魔は死そのものです。悪魔が死を創造したのです。

実は、人間は現世に生まれてくる前に、エデンの園において、神が絶対に食べてはいけないという掟を破ってしまった。これは神を裏切って悪魔に同意したことになるのです。悪魔に同意したという事は、死んだという事です。死んで、エデンの園に置いておけなくなったので、地球に放り込んだ。これが人間のカルマです。業です。(この間の事情につきましましては、旧約聖書創世記2章、3章に詳しく書いていますので、参照してください。)

死ぬはずがない人間が死んでしまった。そこで地球に追放した。これが人間のカルマです。人間は絶対に食べてはいけないものを食べて死んでしまったので、地球に放り込まれたのです。犯罪者です。今地球にいる人間は全部必ず死んでいく人間ばかりです。90歳か百歳まで生きて、皆死んでいく。必ず死んでいく。これは無期懲役刑になっっている死刑囚の状態を意味

するのです。トルストイが言うように、地球は無期懲役刑に処せられた人間がいる巨大な強制収容所です。必ず死んでいく人間ばかりが収容された、強制収容所です。死刑囚ばかりを収容する、強制収容所です。これが人間のカルマです。業です。

それでは、人間は死から逃れる事は絶対にできないのか。できるのです。死から逃れることができ、たった一つの方法があるので、全く幸いにも、私はそれを教えられたのです。異邦人として、また日本人として、全く有り得ない破天荒な恵みを与えられたのです。

私はそれを独り占めすることが出来ないのです。人々が死んでいくのを黙って見過ごしに出来ない。そこで、浅学菲才の身ですが、何とかして、死なない方法を人々に伝える事が出来ないのか。伝える事しようとしたのです。

どうしたら死なない命を獲得する事が出来るのか。まず、宗教ではない般若心経を正確に勉強する。そうして宗教ではない聖書を勉強する。そうしたら死なない命を得

て、地球という強制収容所から脱獄できるのです。

今の人間は絶対に死ぬものとして生まれたのです。死ぬことに向かつて、生きています。赤ん坊は死ぬために生まれた。すべての人生は死ぬためということになるのです。ということは目的がなく生まれてきたという事になるのです。これがカルマです。仏教では人間は妄念から生まれて無限の妄念に落ち込んで、妄念のうちに死んでいくと言っているのです。

釈迦は生老病死から出発した。なぜ人間は生まれたのか。なぜ人間は病気になるって死んでいくのか。この根本原因をとことん究明しようと考えた。そして当時のバラモン教に入り、死ぬほど厳しい修行をしたけれども分からなかった。その他の色々な宗教で修行したけれども分からなかった。

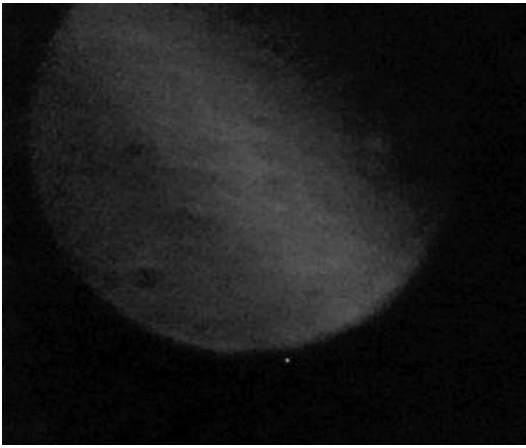
そこで、一切の修行をやめて、自分の一切の考え、経験、記憶を捨てて、全く何も考えずに菩提樹の下に座ったのです。そして、40日目の早朝に、「明けの明星」を見て素晴らしいことを発見したので、釈尊がいる世界は闇の世界で

す。

「明けの明星」の後に太陽がでます。太陽が出ると、暗闇の世界から、真つ昼間の明るい世界になるのです。これを見て、釈尊は、現実の暗い世界、人間が絶対に死んでいく世界から、明るい世界(全く新しい世界)、絶対に死なない世界に行くことができると直感したのです。

般若心経に一切顛倒夢想という言葉があります。今の人間の考えは全部逆さまである。無いものがあると考え、悪を善と考えている。夢想とは夢の中にいるというのです。夢想の中で思案している。ちようど、認知症患者、夢遊病者が、夜中に徘徊しているようなものです。何をしているのか、自分自身で分からないのです。今の政治、経済、宗教は夢想です。政治に本当の目的がない。本当の理想がない。ただ生活が豊かになればいいと言う。

(次号に続く)



写真No.20131216 (望遠ズーム)

た(存在した)が、まだ円内にマンダラ状模様、唐鏡状模様などはない。厚みを感じされる月影状のスジ線(影)が見える。単なる平板状では無く、厚みを感じられる。オーブの外周は割合に鮮明であり、またヘイロー(Halo)も極わずかである。

3. 検討並びに考察

実験を介して判ったこととして、(1)サイ(気)の光(オーブ)は、遠くから、撮影者に向かってやって来るらしい。筆者らも経験したが、日本(山下祐人氏)と中国(数人以上)の非眼視覚の実験の場合。両目に眼隠しをしてイメージで物を視る実験(遠視実験)の場合のサイ(気)の光は、どうも、向こう側からやってくる(サイ科学、29-1、pp.62-66参照)様子である。この傾向が今回の実験の場合にも現れている(前報と本報の写真No.20131106なども参照)。(2)このサイ(気)の光は、撮影者の意識(ASC)と同調(共鳴、共振)する傾向がある。つまり、別報(PSIJ No.420、参照)を見ると、撮影するたびに出現したオーブ(気功)内部の模様(表情)はランダムに代わる。しかし一枚の写真に写される模様のそれぞれは、ほぼ同一模様である。これは、オーブと意識とが、撮影される度毎に同調した(マクロPK)為であろう。(3)オーブ(たまゆら)の芽は、強い発光体を核にした柔らかい綿状の塊の複数

以上の集合体であり、これがゆらゆらと、回転しながら次第に大きさを増して、成長するのであろう。つまり、望遠ズームで撮影したオーブ像を見ると、オーブは、極小球(芽)オーブからイオン・ボール(プラズマ・ボール)状オーブ、通常オーブ(たまゆら)と次第に成長するものと推定される。成長の極後期(ズームの倍率、零)に現れる通常オーブ(たまゆら)は、輪郭が鮮明、Haloがあり、円内部に非対称の干渉縞やマンダラ状の模様を持っている。(4)撮影場所の選定。撮影者の意識とオーブとを同調させる(マクロPKとして)ために、撮影者のバイオホトン(プラナ、オーラ、微細身素粒子)とその周辺の光の海(市街地の光群)との和が放つ光信号を(オーブを呼び寄せるといふ)、遠くにあるオーブの芽が受信して、こちらに向けて、近寄って来ると判断している。または意識とオーブとの間のテレパシーに依るかも知れない。したがって、両者を同調させる為の配慮(マクロPKとして)が必要になる。なお、通常のオーブが多出する場所は、古いオーブが既に多数存在しているので、新しいオーブの芽は近づきにくい、と考える。反面、古いオーブが居ない、しかもオーブが存在しやすい新しい場所が、オーブの形成、成長を見るのに適している、と判断した。本稿の撮影に用いられた福島市内、大谷PA、伊那市などは、この条件を満足していると考えられる。さらに本稿の特徴は、(5)望遠ズームを用いたフラッシュ撮影にある、といえよう。このとき、レンズ付近の偽オーブはほとんど撮影されず、ボケも無く、割合に鮮明に写されている。これが本来の真オーブ(たまゆら)の姿かも知れない。

(注釈) 使用カメラ：カシオEX-Z330、カシオEX-Z2000、カシオEX-Z40、カシオEX-S12、カシオEX-ZR700BK、ニコンCOOLPIX 2200、パナソニックDMC-FX7、ハンディカメラ(ソニーHDR-CX270、パナソニックHC-V210M)。

2-3) 形成中期過程のオーブ

上の(2-2)節と同一雰囲気(環境・周囲の光群)で、場所を変えて実施した。東北高速自動車道路の下り線側の大谷PAである。近くにはめまぐるしい車のライト(赤、黄)の往来があり、遠くには街の灯が夜空の下端をあかね色に染めている。液晶モニター上で約15%の拡大倍率条件で、撮影した。部分拡大図の写真No.150330(1667中期、1)～No.150330(1670中期、2)を見る。綿を球形に纏めた中に4～5個の極小球(白点)を配置した形のNo.150330(1667中期、1)。また(1668中期、2)は内部の極小球形が右上の半円部に集められて「く」字型になっているもの。次の(1669中期、3)は円形の上部が半円形に削られた状態になっている。(1670中期、4)は、白色がより白くなり、その白色円形状の内部に数個の黒点状の核(白色が黒に変化)があるもの。これらは、上の形成初期オーブがしだいに増殖進行して中期過程オーブになったもの、と判断している。

2-4) 中期過程オーブの動的観察

イオン・ボールは陰イオン、陽イオンのスピンドル対とバイオ・ホトン(プラナー、微細身素粒子)の集合体である。サイ(気)もほぼ同一内容である。別報ならびに予備試験によれば、このイオン・ボールが次第に成長(集合)して、上述(2-2節)のオーブの芽になる。また、このオーブの芽は、通常は、近赤外線領域(非可視)に潜んでいる。そして、これが次第に成長するものと判断している。なお別報で、サイ(気)を水に吸収させた気功水の活性化エネルギーを求めたところ、約1.5eVの値を得た。これは近赤外線量域の波動を意味している。従ってオーブもサイ(気)も非可視である。

オーブの動的な(増殖)進行過程を知る為に、デジカメの液晶モニターを用いてオーブを観察する(測定する)事にした。デジカメのシャッターを半押しにすると、カメラからは近赤外線が放射されるので、その視野内にオーブが写り込めれば、液晶モニターに映ることになる。

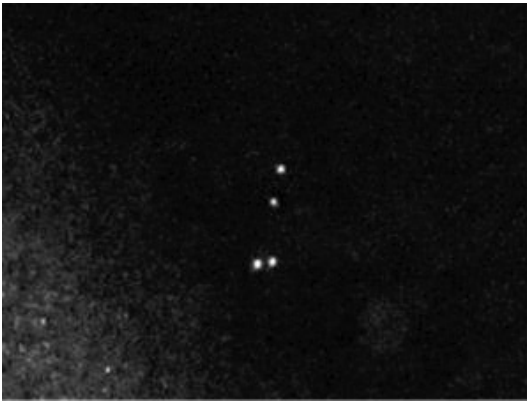
そして、これらの動きを、別置きの手回しカメラに記録する。このような方法でオーブ動画を記録した(詳細は、別報)。観測実験は、2014年8月6日～2015年2月7日。オーブ出現が未知の場所(有名でない)と判断される長野県伊那市、静岡県磐田市、その他。晴れ、夜、に実施された(2-2節と同一雰囲気)。

液晶モニター上でオーブ観測する途中で撮影者がシャッターをきる。すると、動画の一部を切り取った静止像が得られる。撮影者はSDK師(特異能力保持者)である。詳細は別報にゆずるが、此处で述べる実験結果は、上述の記述とほぼ矛盾しない。このような方法で成功した観察実験は8回以上もあり、SDK師は変性意識状態(ASC)でテストしている様子である。得られた結果をみる。

(1)ズームして拡大してから写したオーブ像は、変形しやすい柔らかい綿状の光雲であり、大部分は乳白色である。しかし黄、オレンジ、赤、青、等に変化する場合もある(近赤外光～可視光の間で変化する)。(2)ゆらゆら(回転)、くねくねと、柔軟に変化し、踊る。ときにはモニターの枠外に飛び出す。(3)「キテ」、「キテ」――と、お願いすると、戻ってくる。――また飛び出す――。かえってきて、また踊る。――。頃合いをみて、「エイ」――と(4)全押しで、シャッターを切る。すると、オーブの静止画(像)が撮れる。不思議なことに、(5)ほぼ一個だけがモニター上に写る。さらに此が分離する事もあるが、また結合する、など(動的オーブ写真、省略)。

2-5) 形成後期過程のオーブ

拡大率約25%で望遠ズーム写真をとる。2013年12月16日、晴れ、夜、上の(2-1)と同じ千葉市内、スプレー噴射水を用いたフラッシュ撮影。一例としての写真No.20131216(望遠ズーム)をみる。これは既知のオーブが多出する場所で写されたものであり、写真の左上に円形の大型オーブが写っている。動的に変化・拡大しながらレンズ付近に迄近づいてき

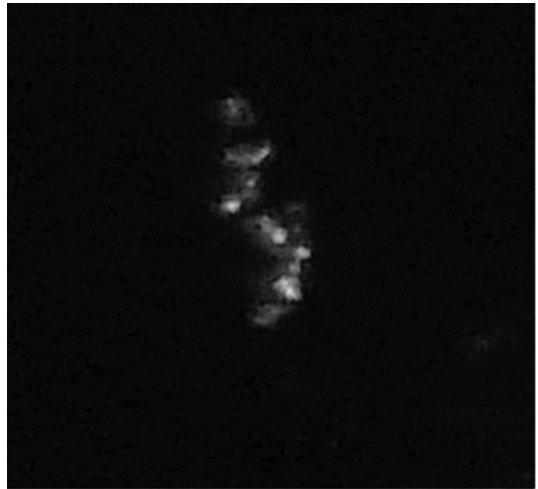


写真No.20131106「向側から来る」

このときの出現頻度は約5%程度である。しかし、経験によると(なれてくる、感覚的に判る)、20%以上の確率で撮影されるようになる。写真No.20131106「向側から来る」は2013年11月6日に千葉市の良く写る場所でフラッシュ撮影された。これと同一内容(同じ日に撮影)で別の画像が別報にもある。写真を見る。左下にキリ状の噴霧放射水(キリ)が放物線を描いて写っており、そのキリ群のなかに強い発光の小粒の光球らしいものが出始めている。同時にその右側に天空(上方)から下方に向けて、ほぼ重力線方向に一列に並ぶ3~5個の連続した(強い発光の)極小白色光球集団があり、この粒は下に行くほど、大きくなる。小粒を拡大してみると、強い発光の小粒の光球体を含んだ柔らかい綿状結合の光集合体(群)である。我々は、これらを形成初期過程(芽)オーブとした。

2-2) 形成初期過程の芽オーブ

オーブの出現が未知の場所(福島市内)で、デジタル・カメラを用いて撮影した。このような場所は、住宅地付近のパワー・スポットや、庶民信仰の場所や、実験室まわりであり、その付近または遠景には、住宅や道路上に色とりどりの照明光(近赤外線などを含む)が存在している。ただし初期過程の芽オーブは稀にしか撮れないので、ここに提示する撮影場所や時期は様々である。つまり、寄せ集めで



写真No.20140131「連続、小球」

ある。これらの「形成初期過程芽オーブの部分拡大写真」の一例を、写真No.20141222「尾を引く」~No.20150201「二列、連続小球」に示した。いずれも晴天の夜間にフラッシュ撮影している。液晶モニター上の倍率表示で約25%拡大したカメラを用いた。No.20150201はタイ国のチャオプラヤー河、その他は福島市内である。No.20141222は2014年12月22日。No.20131213は2013年12月13日である。No.20141222「尾を引く」をみると、点状の極初期のオーブ(白点、芽)が長い距離をすべて天空に線を引いたと思えるような光筋が描かれているが、それぞれの軌跡の方向や大きさは別々である。No.20131213「2本の腕、巴形」には、3個の芽(白点)がある。大白点状一個を中心にして、手を結んで2点が右回り運動を始めたような軌跡が描かれている。No.20140131「連続、小球」は、それぞれの光筋が芽に巻き付いて小球状になり、それらが2~3個ずつ連結されたと思える様な構図(右側と左側)である。No.20150201「二列、連続小球」は、それらの小球状がさらに連結されて二筋になった(中央)と思える様な図になっている。これらの特徴として、極小球の核らしい白点(芽)を補う様な柔らかい光筋線(又は雲状)に囲まれて(護られて)存在している。つまりオーブの芽が形成される過程が写されている様に見える。

オーブ(たまゆら)形成進行過程の望遠ズーム撮影

佐々木 茂美 佐藤 禎花 (故)川崎 利男

ここで扱う「たまゆら(オーブ)」は万葉集の時代から知られていたが、出現条件やその性質が不明だったので、注目される事はなかった。しかし、心と物に関連して出現してくるので、マクロPKとしては、重要な研究課題である。ごく最近の検討によると、電離した薄暗い空間にむけてフラッシュ撮影すると写りやすい。水との親和性が高く、スプレー噴霧水(キリ)が消えた後に写りやすい。しかし、それでも出現し難い場合には繰返して撮影すると写る、等が判明している。本稿では、あらたに、オーブ形成の初期・中期過程の観察を行うことにした。

1. 本報の特徴

本稿はあらかじめ予備実験を行い、その結果を参考にしてテストしている。例えば、写り易い場所でフラッシュ撮影した場合には、既知(通常)の真オーブや偽オーブ(水滴、埃、等)が写りやすく、これを望遠ズーム写真に換えると真オーブのみが写り易い、等を考慮して実験計画をたててある。具体的には、体外にあるオーブと意識との情報交換がしやすい条件設定(例、変性意識状態と場所など)が必要なので、この観点から(1)撮影場所と撮影方法を選んだ。また、サイ(気)の光は向こう側から近づいてくるので(2)望遠ズームカメラを用いて遠方に焦点を合わせて撮影する。また、ゆらゆらと回転しながら近づいてくるので(3)これを動的に撮影する。以上を考慮して実験が計画された。

2. 撮影の条件と結果

市販されている通常のデジタル・カメラを用いて、夕方の暗い電離した空間に向けて、フラッシュ撮影する。このとき条件が満足され

ていて運が良ければオーブの静止画像が得られる。偽オーブを避ける為、同時にオーブ形成の初期過程を知る為に、焦点距離を遠くに合わせて(倍率は液晶モニター上で設定)写すことにした。これを「望遠ズーム」撮影と仮称する。しかしこの時はレンズの視野が狭くなるので、オーブを探しだすのが難しくなる。これを防ぐため、さらに動画撮影の目的から、広角で(焦点距離、短)液晶モニター上に小光球(芽オーブ)を写し出し、つぎにズームで拡大して(焦点距離、長)見やすくしてから別置きビデオカメラで撮影して「オーブ形成の初期・中期過程の動画」を写すことにした。この理由として、オーブは非可視(近赤外線域、0.14eV)なので、液晶モニター上でのみ可視となる。詳しい撮影条件は本文の中で、使用カメラ等は付録に記述してある。なお特記以外は総て静止画である。

撮影場所については、オーブが撮影し難い場所と、良く撮れる場所がある。しかし、なかなか撮れない(オーブが居ない)場所でも、天候条件やスプレー噴霧水を用いる等の物理的ならびに、無心で熱心に撮影するなどの心理的条件(ASCに近づける)を揃えると写りようになる。また、一度写ると(居場所が出来ると)、つぎの二回目からは写り易くなる。良く撮れる場所とは、寺院仏閣(祈りの場)ならびにパワースポット等で、何回も普通(既知)のオーブが撮れる(オーブが存在している)場所をいう。

2-1) スプレー噴霧水撮影

オーブが良く撮れる場所(オーブがいる場所)で、諸条件が満足されていて、環境としてスプレー噴霧水(霧)を放射すると、霧が消えた5~10秒後にオーブが出現してくる(前報)。

4. コントラストが低い
5. 念写対象の部分だけが写る
6. 画素が粗い(解像力、解像度が悪い)
7. 積層の場合中層のみに写せる

これらの実験事実を説明するものとして筆者はスカラー波を考えた。

スカラー波はこれまでの電磁気学では純粋には存在しないとされる縦波の電磁波のことである。電磁波は横波であり、真空中ではいわゆる光速度で伝搬するので、スカラー波は超光速とみてよい。縦波であれば横波が入っていかない物体の中に入っていけるということはある。もともと念写は透視の実験をやっているが発見された。また超光速であれば過去に起因して伝搬する波の他に未来から来る波も考えざるを得ないが、透視実験をしていて予知現象が起こることはよくあり、福来が関わった能力者の中に透視、念写能力の他に予知能力をもつ人もいたのはスカラー波を用いていたからとも考えられる。

そして念写については、眼が受光するとき網膜にあるロドプシンなどのタンパク質がレチナールの変形とともに変形し、その緩和過程でエネルギーの再放出を行う際、スカラー波としても眼から放出されるという機構が、とくに残像ができるまで見つめる念写では、使われていると思われる。スカラー波が両眼から出て焦点のところで交わるときに横波に変換されるので光子が湧き出す形になり写るわけである。

このようにみると、上記念写像の特徴が説明される。1.などは眼球を動かす筋肉の解剖学的特徴に一致するし、3.なども網膜ではエッジ検出も行っているのがそれが反映しているとみれる。4.や6.については光子の密度がふつうの写真より少ないことで説明される。7.については正にスカラー波の特徴そのものである。なお、スカラー波による念写の機構説明については福来心理学研究所会報No.57(2005)に詳述している。

実は電磁場の方程式(Maxwellの方程式)は流体力学から導くことができる。その際、第一近似がMaxwellの方程式であり、より正確にみると磁場をつくる電流(密度)に対応して電場をつくる磁流(密度)が無視できなくなる。その物理的意味は移流項を無視すれば循環加速のことであり、

比容のグラディエントと圧力のグラディエントの外積に比例する存在であるが、これが純粋なスカラー波になる部分である(この辺は「サイ科学」Vol.14 No.1やサイ実測研究会誌No.1でも述べた)。場の量子論では電磁場をゲージ対称性が破れている領域まで拡張したものが正統的に扱われているが、それがこうした拡張にあたる部分である。だから量子論はスカラー波の存在を否定していない。たとえば、陽子(プロトン)と電子との電磁相互作用を表現するときそれを媒介する光子(フォトン)が虚数の質量をもつ場合があることが知られている(もちろん光子の質量はふだんゼロである)。実はこれこそ純粋スカラー波が発せられている状態である。

このような機構が我々の生体にもある。それはミトコンドリアなどにある電子伝達系であり、ここでは上記グラディエントの外積としての循環加速があり電子とプロトンの相互作用がみとれる。ここが実質上スカラー波の送受信器であるとみられるのである。より具体的には電子伝達体のひとつニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸(NADP⁺、NADPH)のNADPHオキシダーゼによる



の平衡状況などがそれにあたる。

こうした反応は網膜の受光タンパク質ロドプシン(+レチナール)などにもあり、これが眼からのスカラー波の発生と、透視、予知などスカラー波の受信になっているとみられる。眼球が小刻みに揺れている若い人程念写に成功するのはスカラー波が上記循環加速によって起こされているからであろう。

実はこのような機構は眼だけでなく各神経細胞の受容体にもあり、スカラー波の送受信は各所で協同的に行われることが可能であるため、ヒーリングの物理的側面やテレパシー、霊視なども説明できるのではないかと考えられる。

※佐佐木康二氏は発明家でもあり、磁流研究室のホームページには、下記の製品等が紹介されていますので、ご参照ください。

◎「磁流図」シリーズ ◎スカラー波発生器

◎「念力計」 ◎音声によるプラーナ測定

URL <http://www1.odn.ne.jp/jiryu/>



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

サイ現象のメカニズム – スカラー波の有望性

佐佐木 康二

何かサイ現象の実験をやってその存在が統計的に有意に確認されたとしても、なかなか世間一般にサイ現象の存在が認められたということにならない。その理由のひとつはおそらくそのサイ現象のメカニズムが従来の正しいとされる科学理論の範囲内で説明できないということがあるからであろう。

もともと新しい現象なので従来科学の外にあるとしても、従来科学の延長線で「科学的」に説明されたとすれば、世間一般に受け入れられていく方向に推移するかもしれない。そのような考え方でみて有望なのは純粋スカラー波の存在である。もし電磁気学の教科書がスカラー波を扱うような時代がくれば、多くのサイ現象を人々は完全に受け入れるようになっていくのではないかと。

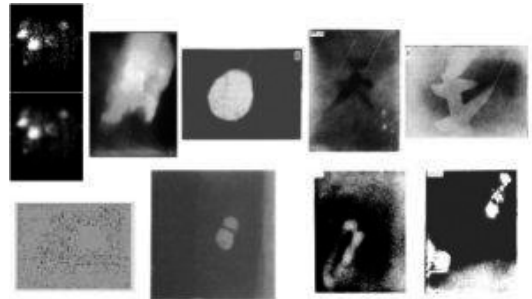
ここではそうしたサイ現象のひとつとして1910年福来友吉によって発見されたとする念写についてみたい。東北日本サイ科学会ではご縁があって福来心理学研究所と共同で長年、公開の念写実験会をやってきており、多くの念写サンプルが得られてきている。この過程で筆者は大半の人が可能な再現性のよい念写方法を発見した。それは念写したい図柄を未開封のフィルム（最近では歯科用フィルムでやることが多い）を脇に用意し、それを残像ができるまで見つめ、残像ができたら視点を未開封のフィルムの方に移し、未開封のフィルムの外から残像を消えるまで見ているという方法である。こうするととくに若い眼をもつ人や年がいても能力者、静止画なのに動いて見えるエニグマ錯視が起きる人ではフィルムを開封現象すると見つめていた図柄が再現性よく写っているのである。エニグマ錯視は眼球が小刻みに

揺れていることに起因するらしく老化とともにこの揺れが少なくなることが知られている。

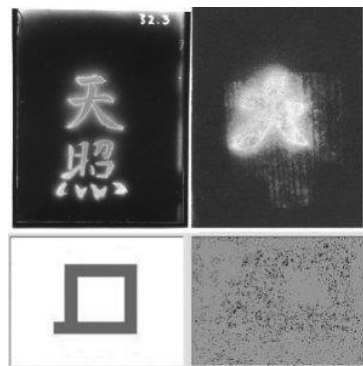
そのような中で最近、福来友吉がやった時代の念写と比較して昔も今も共通にみられる特徴が整理されてきた。

念写像にみられる特徴を列挙すると

1. 図柄（図像）が上下の軸から22°の方向に流れる



2. 同じ図柄が多重になって写る
3. 文字や図柄の輪郭（エッジ）が光る



[左上：長尾郁子1910年 右上：森竹鉄子1911年
左下：課題の図柄 右下：課題の図柄（左記の念写（白黒反転像）S氏 2004年（デジカメへの念写）]